

1 カリキュラム・ポリシー

リベラルアーツ学部では、4年間で3期、導入期・発展期・専攻期と位置づけ、それぞれの目標である構想力・実践力・推進力の育成をカリキュラムにおいて実現させる。導入期では日本語・英語のコミュニケーション力・情報処理スキル、プレゼンテーションスキルなどの育成に力点を置き、発展期では専門的研究の入門・演習科目を多様に開講し、実験・実習など様々な学びのスタイルを通して自らの課題に取り組んでいく。専攻期ではリベラルアーツセミナーで研究方法を培い、問題の発見、課題の解決、思考力を専攻科目の履修を通して養い、その成果を地域に資するために発表、提供できる教育課程の編成としている。

- ① 語学力を高めるために、1年次はELF科目により英語を毎日学ぶ。(週4回)
英語によるコンテンツ科目を履修するためには、TOEIC®400点以上の取得を基本とする。また、卒業までにTOEIC®600点の取得を目標とし、卒業時までにELF301を履修し、学修する。
- ② 1年次は、英語・日本語による論理的思考力・情報リテラシーを含む分析力などの基礎力育成に力点を置き、各専攻の入門科目を幅広く学ぶ。
- ③ 2年次では自身が基幹として学修を希望する分野の入門・概論科目について履修プログラムに示された科目を中心に学ぶと同時に、他分野の学修も積極的に行い、幅広い分野の学びを通して、各自の専門分野の選択を確定する。
- ④ また、テーマ別の分野横断的な科目『ブリッジ講座A / B』を開講する。この履修によって、リベラルアーツ型の分野横断的な視野を養う。
- ⑤ 2年次以後、主にサマーセッション時に行われるインターンシップ等への参加を推奨する。大学において学習した内容を社会で実際に活かすため、社会の様々な実践の場を体験し、「大学での学びを社会で実践し深める」機会とする。
教室における授業や演習では十分に把握できない生の社会を体験する機会となるばかりでなく、自己の職業観の形成や自己を客観的に判断する能力の育成のための機会とする。
- ⑥ 3年次からは、各自の選択した専攻を深めるための専門科目と共に、少人数で実施されるリベラルアーツセミナーにおいて、それぞれの学問分野における学修・研究方法を深く学び、各自の課題を解決する学修を深める。
- ⑦ 卒業年次においては、学習成果を社会に資するために、卒業論文・卒業プロジェクト（リベラルアーツプロジェクト）に取り組み、各自の専攻分野において身につけた様々な力を活用し、研究成果をまとめ、発表する。

1 専攻（メジャー）

基礎となる科目を学修した後、各自の目標に従って専攻（メジャー）を決定します。メジャーごとに指定された履修プログラムにより学修を進めます。ダブル専攻も可能です。（その際、サブメジャーの必修選択科目10単位を取得）

(1) メジャーの登録

3セメスター終了時（正式登録）→4セメスター終了時（最終決定）※以後変更はできません

(2) 領域とメジャーの概要

① ヒューマン・スタディーズ領域

人間探究を通して現代社会で生きる力を養う。人間に根本的な哲学や宗教の問題、人間の成長や発達・行動の仕組み、人間の行動の社会的要因について、批判的・論理的に思考できる力を養う。

哲学・宗教メジャー

物事を根源的・批判的に考察し、様々な問題を包括的に捉えることができる。人類の歴史や思想を宗教的な観点から深く理解し、多文化共生の課題解決のために貢献できる。

心理学メジャー

心と行動の仕組みを実証的に研究する方法やその理論を身につけることで、社会、地域、組織、家族におけるさまざまな問題に対して貢献することができる。

社会学メジャー

現代社会の問題を、社会理論と実証的データに基づいて理解・分析し、その知見の活用を通じて具体的な問題解決に貢献できる。

② ジャパン・スタディーズ領域

グローバル化した世界の中で「日本」を客観的に理解し、発信し、現代社会と関わる力を養う。

日本語・日本文学メジャー

日本語についての正しい理解を基盤にした高度な日本語表現能力や日本語教授の実践力、さらに過去から現代に至るまでの文学作品を読み込んでいくことで養った批判的思考力や発信力により現代社会における諸問題の解決に貢献できる。

日本学メジャー

人間の生活や思想などを多様な観点から広く追究しつつ、生活の全分野にわたる伝承文化をとおして日本の基層文化を理解し、現在の日常・非日常における文化状況や社会状況を正しく分析し発信する力を身につける。

③ グローバル・スタディーズ領域

国際関係を核に世界と関わる力を養う。

国際関係メジャー

現代日本の現況を国際関係の観点から考察し、国際協力をとおして具体的な問題解決に貢献できる。

④ STEMスタディーズ領域

情報技術や科学と現代社会のつながりを学び、未来社会に必要な技術と関わる力を養う。

STEMメジャー

現代科学に関心を持ち、科学と現代社会の関わりについて考察し、多様な分野を科学的・実証的に考察・判断する力を身につける。

2 オフキャンパス・スタディーズ

- キャンパス外のさまざまな現場で実践的に学ぶことを奨励します。

オフキャンパス・スタディーズの単位認定に関する規定

① 対象科目

「フィールドリサーチ」「Japanese Studies Overseas A～C」「フィールドワーク A～C」
「インターンシップ A～D」「日本語教育実習 A～C」「地域創生プロジェクト A～F」

② 受講条件

原則として学修継続条件に抵触していないこと

③ 事前登録手続き

Semester初めに行われるガイダンスに出席する
教務担当教員に履修申込書を提出する
教務担当者会、主任会、教授会で審議のうえ 履修を許可される
(実習) 原則として45時間を1単位とし実習を行う

④ 単位認定

実習終了後次Semesterの履修登録期間に該当する科目を履修登録する
報告書を提出するとともに報告会を開催する
教務担当者会において最終単位認定審査を行う
主任会・教授会の承認を経て単位認定する

2 卒業要件

- (1) 修業年限を満たしていること
-
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
-
- (3) 卒業時における累積GPAが2.00以上であること
-
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目を修得していること
 玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」「玉川の教育」「健康教育」
 「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「二年次セミナー 201」「二年次セミナー 202」
 自然科学科目群：「情報科学入門」
 言語表現科目群：「日本語表現101」「日本語表現102」 ELF科目より「ELF301」を含み4単位以上
-
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群より、上記必修科目と自身のメジャー（※）の必修選択科目を含んで各4単位以上、学際科目群から2単位以上修得していること
-
- (6) 学科科目より、次の必修科目（9単位）を修得していること
 「リベラルアーツ基礎」「ブリッジ講座A」「リベラルアーツセミナーⅠA」「リベラルアーツセミナーⅡA」
 「リベラルアーツプロジェクト」
-
- (7) 学科科目・他学科開講科目のうち、①自身のメジャーの必修選択科目より10単位以上、②自身の領域（※）以外の3領域の必修選択科目より各4単位以上（①で修得済の同名称科目は対象としない）修得すること
-
- (8) 卒業見込セメスターにおいて卒業発表を行い、その審査に合格すること

※メジャー・領域の構成については以下ようになります。

※メジャー・領域の必修選択科目についてはp.202～207「リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科教育課程表」の「メジャー別履修条件」を参照してください。

領域	ヒューマン・スタディーズ			ジャパン・スタディーズ		グローバル・スタディーズ	STEM スタディーズ
メジャー	哲学・ 宗教	社会学	心理学	日本語・ 日本文学	日本学	国際関係	STEM

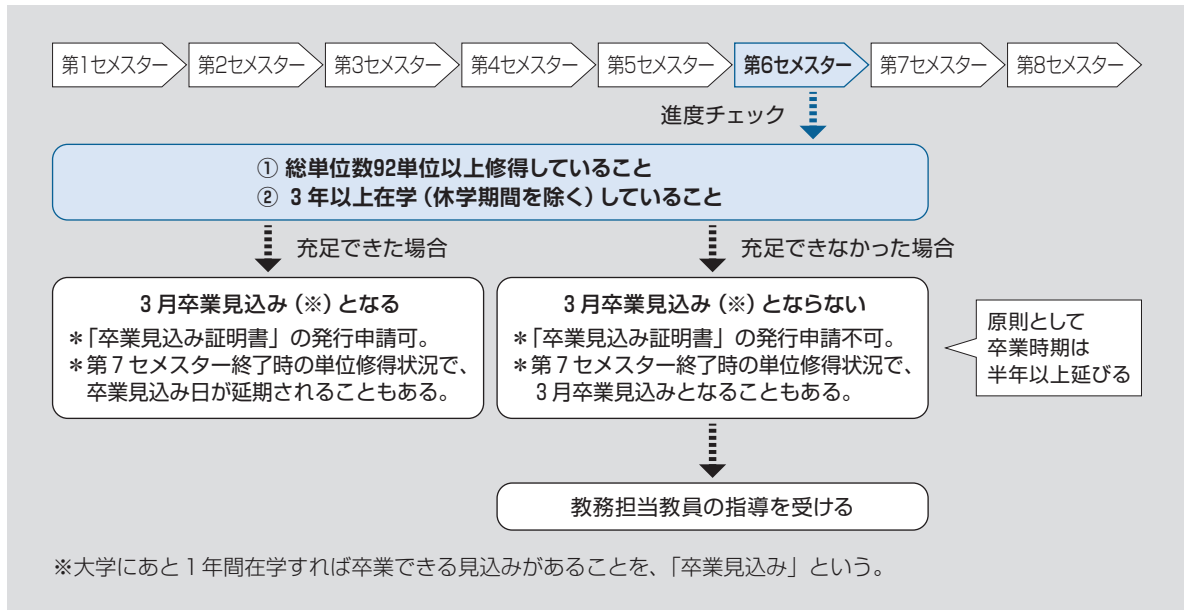
3 卒業までの単位配分

科目群	科目分類	必要単位		必修科目
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目群	11単位		「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」 「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」 「二年次セミナー 201」「二年次セミナー 202」
	人文科学科目群	4単位以上	自身のメジャーの必修選択科目から2単位以上含むこと	
	社会科学科目群	4単位以上		
	自然科学科目群	4単位以上		「情報科学入門」
	学際科目群	2単位以上		
	言語表現科目群	8単位以上		「日本語表現101」「日本語表現102」「ELF301」
学科科目	必修科目	9単位		「リベラルアーツ基礎」「ブリッジ講座A」 「リベラルアーツセミナーⅠA」 「リベラルアーツセミナーⅡA」 「リベラルアーツプロジェクト」
他学科科目	必修選択科目	自身のメジャーから10単位以上		
		自身の領域以外の3領域から各4単位以上		
自由選択科目	その他学科科目 その他US科目 その他他学科開講科目 単位互換科目	任意		
	累積修得単位数	124単位以上		

4 進捗チェック

- リベラルアーツ学部では、一人ひとりの学生の学修状況が卒業に向けて順調に進んでいるかを確認するために、下記のようにチェックを行います。

第6セメスター（3年次秋）終了時における進捗チェック



5 資格

リベラルアーツ学部で取得できる資格は、「資格を取得するために」(p.221～)を参照して確認すること。

- *日本語教員
- *社会調査士
- *宗教文化士
- *図書館司書
- *社会教育主事(任用資格)
- *学芸員
- *環境エドゥケーター
- *TAPファシリテーター